

大学博物館を大学教育に活用する

村田 麻里子

関西大学での教員歴は今年に入ってからちょうど十年になる。しかし、今回の社会学部五十周年記念展を手掛けることになって、学部 of 歴史も、大学の歴史も、初めてしっかりと学ぶ機会を得た。

社会学部の誕生から現在までを追うこの展覧会は、学生たちにとっても、自分の大学や学部の歴史を知る格好の場となるはずである。しかし、学芸員課程の一環として博物館実習を受講している文学部以外の学生が、博物館・年史編纂室と関わりを持つ機会は少ないのが現状だ。特に社会学部のある第三学舎は、博物館・年史編纂室と距離が離れていることもあり、また学生たちに展示をみるという習慣がないこともあり、彼らが自主的に足を運ぶことはあまり期待できない。そこで、担当していた一年生の「基礎研究Ⅰ」で、展示を活用しながら大学や学部の歴史を知ることのできる実践を考えてみた。

「基礎研究Ⅰ」は、社会学部に入学した一年生がまず受講するゼミ形式の必修科目で、大学で学ぶ作法を身につけることを目的としている。今回は、この授業の一環として、学生たちに、展示鑑賞の際に来館者が利用できる「ワークシート(学習シート)」を作成してもらうことに

した。ワークシート(学習シート)とは、博物館等の展示を鑑賞する際に、作品や展示をよりよく理解する手助けとして用意されているもので、クイズ形式になっているものも多い。今回の作業は、より主体的に大学と学部の歴史について考えてもらうための仕掛けであると同時に、メディア(媒体)をつかって発信することの意味や目的、それを届けるオーディエンスについて考えてもらうよい機会になると考えた(学生達は「メディア専攻」に所属している)。

表1が課題とスケジュールである。授業一五週のうち、三分の一にあたる五週分をあてたが、時間内では当然終わらないため、学生たちは授業時間外にも作業をした。

年史編纂室では、企画展「人と社会をみつめて——関西大学社会学部50年のあゆみ」と同時に、常設展である「関西大学のあゆみ」を開催していた。そこで、二室ある展示室のそれぞれに一面ずつ使って、表裏一枚のワークシートをつくってもらうことにした。企画には、年史編纂室の学芸員である熊博毅さん・伊藤信明さんの二名が全面協力してくださった。

表 1

基礎研究 I 第 6 週～第10週「大学の歴史を知る」

◎「関西大学のあゆみ」展および「人と社会をみつめて—関西大学社会学部50年のあゆみ」展の展示室で使えるワークシート（学習シート）を各グループで1枚つくる。

書式：A4 裏表1枚 OR A3 裏表1枚

対象：関西大学博物館および年史資料展示室の来館者（主に成人）向け

※ただし、実際には高校生や関大生が使う可能性も高い。

条件：

- ① 各展示、片面ずつを目安とする。質問（文字）は多すぎず、少なすぎず配置すること。
- ② 博物館全体に触れてもよいが、ワークシートが年史資料展示室に置かれる（つまりここで使用される）ことに留意して作成すること。
- ③ ワークシート全体としての方針（テーマ）をたて、何を考えてもらいたいのかはっきりさせること（ばらばらと無関係な質問を箇条書きにしないこと）。
- ④ 各面、最低1点は展示物（あるいは展示パネル）の写真をいれること。
- ⑤ 白黒コピーに耐えうるものにする。
- ⑥ 展示がよりよく鑑賞・理解できることを手助けするものとして位置づけること。展示室でわからない情報は載せないこと。
- ⑦ 利用者の意欲を引き出すような、魅力的なレイアウトを心がけること。

スケジュール：

第6週 ギャラリートーク

第7週 各グループ、作業 →質問は年史編纂室の熊さん・伊藤さんまで

第8週 各グループ、ワークシートの方針を報告。その後、作業。

※来週の授業までに電子データ（貼付ファイル）で村田宛に送ること。

第9週 完成品の配布

※各自で展示室に出かけ、それぞれのワークシートを試しておくこと。

第10週 授業冒頭に投票

※学生・村田は1点、熊さん・伊藤さんは各2点で投票し集計する。

※もっとも点数の多かったグループのワークシートを展示室に設置してもらう。

学生たちは六人のグループに分かれて作業をおこなった。まず、いくつかの博物館のワークシートの見本をみながら、ワークシートには「視点」が必要であることなどを確認した。そして、いざ博物館見学へ（写真1〜5）。学芸員によるギャラリートークを聞きながらメモをとる、自分たちなりに気になる点やポイントとなる箇所をみつめた。その後、撮影してきた写真とパンフレットをにらめっこし、再び展示室に足を運び、議論を重ね、学芸員・教員とも相談しながら、それぞれ作業を進めた。最終的には以下の六案が出揃った（写真6）。

- ① 「人が創る関西大学」
- ② 「数字でみる！ 関西大学」
- ③ 「マップで広がる博物館」
- ④ 「（表） 関西大学 初めての○○／（裏） 変化で追う社会学部」
- ⑤ 「（表） 関大から世界へ 関大が誇るフィギュアスケート選手たち／（裏） 社会学部のこれまで」
- ⑥ 「みんな落ち着いて解きや〜in 関西大学」

これらのワークシートは全員に配布され、学生たちは各自でシートを持って展示室をまわったうえで、投票に臨んだ。また学芸員二人にも目を通してもらい、投票に加わってもらった。投票の際には、投票者全員に投票理由（よかった点）と改善点を書いてもらい、すべて読み上げて共有した。

ワークシート①は、関大の創設者や、関大及び社会学部出身の有名な人など、「人」に焦点を当てたワークシートである。②は、たとえば創

立記念日、創設者数、学部数、男女比など、数字を軸に展示を読み解くワークシートである。①、②どちらも、人、数字という軸を立てることに成功している。学生からも「関大の歴史も学部も歴史も全て数字で問題がつけられていて統一感があった」「問題を解くために見えるベキ場所が散らばっているからまんべんなく展示をみる事ができるようになっていた」といったコメントが寄せられた。③「マップで広がる博物館」は部屋の地図に沿って穴埋めをしていくというシンプルなつくりながら、最多票を獲得した。「マップが軸になってどこに何があるか明確でわかりやすい。内容・情報量が多いのに、どれも簡潔にまとめられている」「単にマップを掲載しているだけでなく、所々におすすめる所や説明を加えていて、巡りやすくする工夫がされていると感じました」など、地図であることの効果に対するコメントが寄せられた。実際に、展示室の空間を、手元のシートとつきあわせて把握するのは、案外難しい作業である。④、⑤は表と裏の共通テーマを見いだせなかったようだが、④の表面は関西大学初めての学舎や初めての部活動など、「初めて」に焦点を当てたもので、ひとつの軸が立っている。⑤のグループは、表面をスポーツ、しかもフィギュアスケートのコーナーに絞ったワークシートをつくった。今回こちらが出した条件からすればテーマを絞りすぎだが、ワークシートとしてはありだろう。学生たちからも「フィギュアに絞って面白」「クイズと説明の割合がちよと良く、飽きずに楽しめると思いました」などのコメントが寄せられた。最後に⑥はワークシートを貫くテーマをみつけきれなかったものの、絵や写真を多用した賑やかなシートになった。また長い学部紹介が自分たちの言葉で書かれており、ワークシ

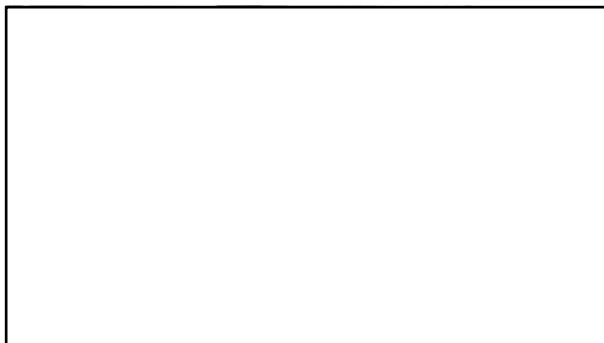


写真 2



写真 3



写真 1

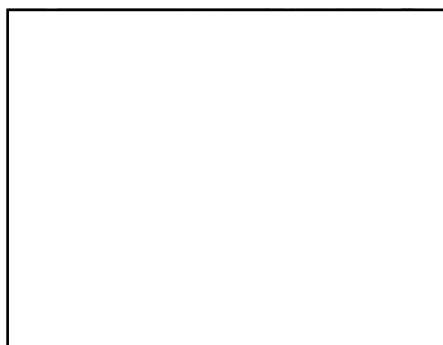


写真 5

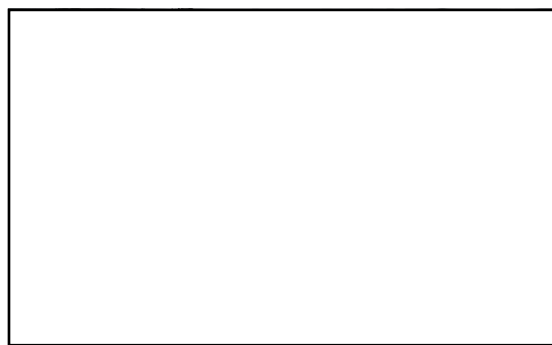


写真 4

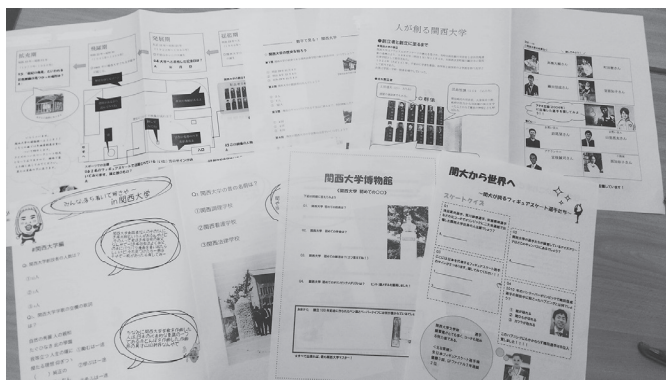


写真 6

トというよりは、解説シートのようなものが出来上がった。「イラストを入れて読んで読みたくなる」「問題を解いた後に、関大について知らなかった事が分かった気がした」と、一定の票を集めた。

また、学芸員の熊さん、伊藤さんともに、③「マップで広がる博物館」を押しした。以下は、熊さんがあわせて寄せてくれたコメントの抜粋である。

私がよいなと思ったのは「マップで広がる博物館」です。表裏ともに展示室の見取り図が入れられ、見どころとなるポイントが示されている点は、このワークシートを手にして展示を見る人にも分かりやすいガイドになっていると思いました。質問の内容も、実際にこのシートを手にながら回ってみると比較的簡単に解答を見つけられるものなので、その意味では、パネルの解説を読ませる良いきっかけになっていると思います。ただ、常設展示室のシートは、一見したところ、Q1からQ3がどこに置かれているのかよく分からなかったため、質問を配置する場所や全体のデザインには工夫が必要かもしれません。企画展示室の方のワークシートは、ここに気づいてほしいというポイントが、質問とともに適切に示されていると感じました。ワークシートは、あくまでも展示を見る人に、こちらが知らせたい情報をどのように誘導していくのか、という点に大きな意味を持つものだと思います。そういう視点からすると、このワークシートは表裏ともによく考えて作られていると感じました。

それ以外のワークシートも努力して作られていることはよく感

じ取れました。ただ、たとえば質問だけが記されているシート、これは初めて展示室を訪れた人にとってはどの解説パネルを読めばいいのか、どこに何が書かれているのか、モノ資料としては何が特徴的なのかといったあたりが理解しにくく、結果として展示を理解するためのツールになりきれいていないのではないかと思いました。ワークシートは、展示を見る人が展示内容を理解する手助けになるものである、というのが役割の一つだと思います。そのためにはある程度の情報提供は必要です。質問だけだとどこを見ればよいかわからず、結果として解説を読むことすらスルーしてしまうかもしれないと思いました。

(…略…)


年史編纂室で働く私たちも、今回学生さんたちが作るワークシートを初めて見せていただきました。学生目線、若い人の考えとこのころの自分も同じものかと思ったり、改めて気づかされたところもあります。その意味では、とても楽しい、よい経験をさせていただきました。

このように授業の担当教員のみならず、学芸員が熱心に関わってくれたことで、学生たちもそれに応えるべく、主体的に作業をこなしていったように思う。なお、もともと投票数の多かったグループのワークシートは、展示室においてももらうことにした。そのため、③「マップで広がる博物館」だけは、再度手をいれ、最終的には以下のような状態で展示室に置いてもらった(図1〜2)。

最後に、この作業全体に対する学生たちの感想を、いくつか紹介しておこう。

~Let's expedition~
マップで広がる博物館

拡充期
昭和 45 年～昭和 61 年
(1970年～1986年)
Q5: 「世紀の発見」といわれる
彩色壁画が見つかった場所は?
A: _____




あすかの壁画にありませ

飛躍期
昭和 20 年～昭和 30 年
(1945年～1969年)
◎1969 年に関西大学でも大学紛争
が起こる。
歴史を感じるゾーン

発展期
大正 11 年～昭和 20 年
(1922年～1945年)
◎千里山キャンパス誕生
Q4: 大学へと昇格した日は?
A: _____年 ____月 ____日

揺籃期
明治 19 年～大正 11 年
(1886年～1922年)
◎関西大学の前身となる専門学校の
誕生
Q3: この銅像の人物は創立者の中で誰?
A: _____
Q2: 創立記念日はいつ?
A: _____月 ____日
Q1: 西国大学と呼ばれるようになるまでは、
何と呼ばれていた?
A: _____




創立者の銅像の前にある

いらいしいませ、
関西大学の博物館へようこそ!!
こちらの面では卒業資料展等並に
ついて紹介します。
クイズのついたワークシート形式
となっておりますので、積極的に答
えを導き出してみてください。
答えは裏面の下にあります。

GO!GO!

裏面は社会学部について

スポーツでの活躍
Q6: 2名のフィギュアスケートで活躍されている(いた)方のサインが
おいてあります。誰と誰のもの?
A: _____



9-11-017117 高橋舞優選手 星野穂花選手 緑志麻理奈選手 志野早織選手 1-7-1 藤本志穂選手

このワークシートは関西大学社会学部メディア専攻1年の学生たちが「基礎研究1」で作成した
ものです。観覧の際にご活用くだされば幸いです。

図 1

答えはこの面の
裏にあるよ!

パンフレットや資料があります
ぜひ、手に取ってみてね!

社会学専攻
Q1: 専攻の教員全員で
執筆されている
ユニークな教科書の題名は?
A: _____

教育の成果
Q4: 心理学の実験に
用いるために設置された
実習室の名前は?
A: _____

社会学部学会の友妻
Q3: 社会学部1号館を設計した建築家
は誰でしょう?
A: _____

社会学部のポスター
有名なキャラクターが
描かれているよ
探してみよう!

メディア専攻
Q2: メディア専攻の元になった
学部・学科は何という名前でしょう?
A: _____

社会学部 50 年を感じるゾーン

現在の社会学部

情報化と国際化が進む

教育の飛躍

学舎の増築がすすみ
実験や実習授業が充実

大学紛争

半年以上
混乱状態が続く

社会学部の誕生

構想まで9年の
月日がかる

9-11-017117 高橋舞優選手 星野穂花選手 緑志麻理奈選手 志野早織選手 1-7-1 藤本志穂選手

図 2

「班によって質問が全く異なることや、テーマが違うことで様々な着眼点があるということを改めて感じた。さらにレイアウトで見方が変わってくることも気付き、一見すると普通のポスターや資料も、本当に一番みやすいものなのかということを考え直す機会にもなった。」

「作業をしてみて、膨大な情報の中から自分たちが必要な情報を取捨選択することが難しいと感じた。特に、バラバラではなく、テーマ・タイトルに合ったもの、と条件がつくことでさらに絞られ、また解く側の立場になって考えてみなければならぬので、私自身は苦手な分野だと全体を通して感じた。」

「沢山の情報の中から、どういう視点にしばってより具体的に広く伝えることができるかを考えるのが大変でした。また、あまり形式的すぎても、読み手は飽きてしまうし、かといって浅い内容になっても魅力が伝わらないので、その度合いが難しかったです。限られたスペースにどれだけ深く広い内容を伝えるためのレイアウトができるかが大切だなと思いました。私たちのワークシートのテーマは「人」でしたが、社会学部と関西大学という異なる視点から「人」という同じテーマで一貫させるところに少し苦労しました。あと、意外とウェブには過去の資料や情報が少ないと感じました。」

このように、ワークシートというメディアの意図やオーディエンス

についてひとしきり考えたコメントがほとんどだった。ウェブに大学や学部の過去の情報がないという指摘は、今後の大学運営の参考にしたい。また、もうひとつの目的であった、大学や学部の歴史を知るといふ点についても、いくつか言及があった。

「作業を進めていくうちに自分自身が関西大学の歴史や学生生活の変化についてより深く知ることができました。」

「今回のような機会がなければ、関西大学の歴史について学ぶことはなかったと思うので、自分の通っている大学について知ることができていい経験になった。関西大学は非常に歴史のある大学だと感じた。と同時に、人に伝えることの難しさも感じることもできた。」

今回の実践は、来館者にとってわかりやすいワークシートの作成という点においては、当然ながら全く不十分である。仮にこれが博物館教育の授業であれば、現行のシートを、もっと来館者の視点から精査し、さらに精度を上げていく必要がある。しかし、今回の目的は、学生たちが大学の歴史を知ることと、メディアにおける受け手を想定して自分たちで工夫をこらす、という点にあり、この目的はある程度達せられたといえよう。

(むらた まりこ・関西大学社会学部教授)